

# 環境報告書

## Environmental Report

# 2018

対象期間；2017年4月～2018年3月



西川ゴム工業株式会社  
NISHIKAWA RUBBER CO., LTD.

# 目次

	( ページ )
・ 会 社 概 要	1
・ 環 境 マ ネ ジ メ ン ト	1
・ 環 境 保 護 へ の 取 組 み	2
・ 環 境 に 配 慮 し た 設 計 活 動 の 紹 介	2
・ 廃 棄 物 に 関 す る 取 組 み	3
・ CO <sub>2</sub> 排 出 量 削 減 の 取 組 み	4
・ 主 要 海 外 グ ル ー プ 会 社 環 境 実 績	5
・ 環 境 負 荷 物 質 の 排 出 状 況 と 水 使 用 量	6
・ 2017年 度 の 環 境 パ フ ォ ー マ ン ス ま と め	7
・ 環 境 コ ン プ ラ イ ア ン ス	8
・ 地 域 貢 献 活 動 , 環 境 保 護 活 動 , コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	
( 国 内 生 産 拠 点 )	9 ~ 10
( 国 内 関 係 会 社 )	11
( 海 外 関 係 会 社 )	12 ~ 14

# 会社概要 (2018年3月31日 時点)

## 【 会 社 概 要 】

社 名 西川ゴム工業株式会社 (NISHIKAWA RUBBER CO., LTD.)  
 所 在 地 〒733-8510 広島市西区三篠町二丁目2番8号  
 代 表 者 代表取締役 社長 福岡 美朝  
 設 立 1949年4月  
 資 本 金 3,364百万円  
 従 業 員 数 1,374名 ( 連 結 : 6,320名 )

## 【 事 業 内 容 】

自動車用部品 ゴム・樹脂シール製品, 内外装製品, 等  
 一般産業資材 住宅関連製品, 土木関連製品, 等

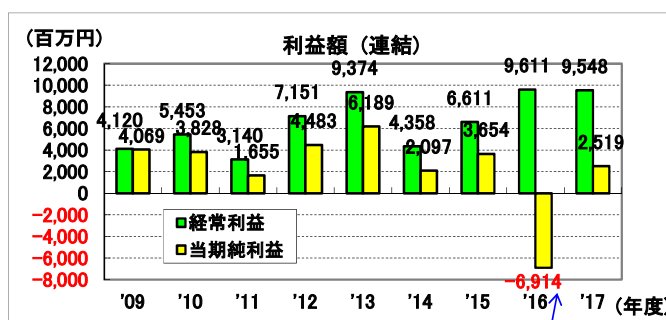
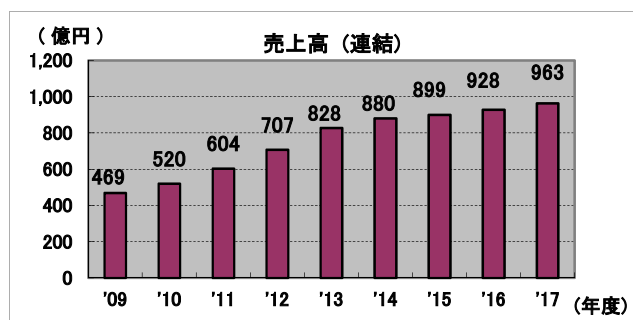
## 【 国 内 拠 点 】

工 場 白木工場, 吉田工場, 安佐工場, 三原工場  
 営 業 所 横浜営業所, 宇都宮営業所, 浜松営業所, 名古屋営業所, 大阪営業所, 広島営業所, 山口出張所  
 国内関係会社 西川物産(株), (株)西川ビッグオーシャン, (株)西川ゴム山口, (株)西和物流, 西川デザインテクノ(株)

## 【 海 外 拠 点 】

ア メ リ カ NISHIKAWA COOPER LLC / Nishikawa of America, Inc.  
 タ イ Nishikawa Tachaplalert Cooper Ltd.  
 中 国 上海西川密封件有限公司 / 広州西川密封件有限公司 / 西川橡胶(上海)有限公司  
 メ キ シ コ NISHIKAWA SEALING SYSTEMS MEXICO S.A. de C.V.  
 イ ン ドネ シ ア PT. NISHIKAWA KARYA INDONESIA  
 イ ン ド ALP NISHIKAWA CO., PVT. LTD.  
 イ ギ リ ス Nishikawa Rubber Co., Ltd. Europe Branch

## 【 連 結 業 績 の 推 移 】



※ '16年度は、独占禁止法関連損失を特別損失として計上の結果、利益額のマイナスが発生しました。

# 環境マネジメント

## 【 環 境 方 針 】

※ 2016年6月 ISO14001 2015年度版への移行を期に、環境方針の見直しを行いました。

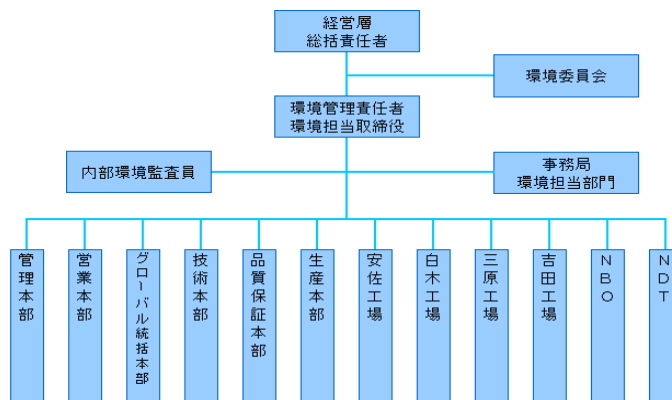
### < 基本理念 >

当社は、環境保護を経営の重要課題として位置づけ、開発・設計・購買・生産・物流・販売・廃棄までの製品のライフサイクル全段階にわたって、社是(正道, 和, 独創, 安全)の精神で「地球にやさしい事業活動」をグループ全体で取り組みます。

### < 行動指針 >

- 法令遵守  
環境関連の関係法規制等、及び当社が合意するその他の要求事項を遵守します。
- 環境に配慮したモノづくり  
省エネルギー・省資源・リサイクル・廃棄物の削減、環境負荷物質(有害化学物質)の使用抑制及び汚染の予防に取組み、その継続的改善による環境保護に努めます。
- 社内啓発活動  
全従業員の環境に関する法律遵守及び環境への意識向上を図るため、環境教育を継続的に実施し、全社的な環境保護活動を推進します。

## 【 環 境 管 理 体 制 】



### ● ISO14001 認証取得状況

	取得時期	有効期限	審査機関
西川ゴム工業(株)	2000年12月	2018年9月	DET NORSKE VERITAS

# 環境保護への取組み (西川ゴム単体)

西川ゴム工業の環境側面をふまえて、環境目的・目標を設定し活動しています。

## ● 2017年度目標と結果

No.	取組み項目	2017年度目標	2017年度実績	備考
1	CO <sub>2</sub> 排出量の削減	CO <sub>2</sub> 排出量 40,615 t	CO <sub>2</sub> 排出量 42,199 t	昨年度は、生産現場の省エネ活動が反映されやすい原単位として“投入量原単位”での目標値設定をおこないましたが、製品の軽量化などの影響で、原単位/CO <sub>2</sub> 排出量とも計画未達。  ただし、長期的視点にたち来年度以降の対応として2030年度目標の設定を行い、継続的改善を図ります。
2	CO <sub>2</sub> 原単位の削減 (排出量 t/投入重量)	CO <sub>2</sub> 原単位 1.296	CO <sub>2</sub> 原単位 1.362	
(参考)	CO <sub>2</sub> 原単位の削減 (排出量 t/売上高)	CO <sub>2</sub> 原単位 0.849	CO <sub>2</sub> 原単位 0.886	
3	製品含有化学物質管理 システム構築(REACH規制対応)	化学物質全成分把握 調査把握 100%	化学物質全成分把握 調査把握 100%	
4	マテリアルリサイクルの推進	軽量化・樹脂化、マテリアル リサイクルの技術開発	軽量化・樹脂化、マテリアル リサイクルの技術開発	

## ● 長期環境目標の設定(2013年度基準 ⇒ 2030年度 排出量 6.5%削減)

No.	目標項目	(基準年度) 2013年度実績	2018年度目標	2030年度目標
1	CO <sub>2</sub> 排出量の削減	CO <sub>2</sub> 排出量 39,900 t	CO <sub>2</sub> 排出量 41,833 t	CO <sub>2</sub> 排出量 39,369 t
2	CO <sub>2</sub> 原単位の削減 (排出量 t/投入重量)	CO <sub>2</sub> 原単位 1.478	CO <sub>2</sub> 原単位 1.353	別途設定
3	製品含有化学物質管理 システム構築(REACH規制対応)	化学物質全成分把握 調査把握 100%	化学物質全成分把握 調査把握 100%	化学物質全成分把握 調査把握 100% (継続対応)
4	マテリアルリサイクルの推進	軽量化・樹脂化、マテリアル リサイクルの技術開発	軽量化・樹脂化、マテリアル リサイクルの技術開発	別途設定

# 環境に配慮した設計活動の紹介

## ● CAE解析/シミュレーションを活用したモノづくり

CAE(Computer Aided Engineering)による解析/シミュレーションは、設計開発活動のリードタイム短縮にとても有効な手法です。

私達が取り扱うシール分野では、その変形状態等が外部から直接観察できないことが多いことから、この技術の活用意義・要求は高く、シール断面単体の2次元変形シミュレーションはもちろんのこと、ドアコーナ部の3次元変形シミュレーションなど様々に取り組んでいます。

また、この技術は製造分野にも積極的に活用され、生産性改善、不良低減ひいてはエネルギー効率向上に寄与しています。その例としては次のようなものです。

設備 → 製品 → 工法

解析/シミュレーション

効率の良い/環境に良いモノづくり

**<押出機におけるゴム/樹脂の流動解析>**  
材料特性を踏まえた最適な流路設計と条件設定(特に滞留最小化を目指す)

流れ方向  
流体の流動/流速予測ベクトル

**<加熱炉等におけるワーク/炉体の熱解析>**  
加硫・架橋・焼付硬化のキーファクターであるワーク温度の予測・解析  
最少エネルギーで昇温・保温できる炉体構造・機構の確立

改善前 → 改善後  
加熱炉内の熱解析チャート

**<省人化ロボットシミュレーション>**  
ロボット動作軌跡の最短化  
塗装における最適塗布角度・位置・工数の複合最適化(塗着品質・効率、動作工数)

ロボット軌跡検討イメージ

今後も、このような改善を積み重ねて、効率の良い製造工程づくりにつなぐとともに、シミュレーション技術自体もさらなる進化をさせ、設計から納入まで含めたより効率の良いモノづくりを目指してまいります。

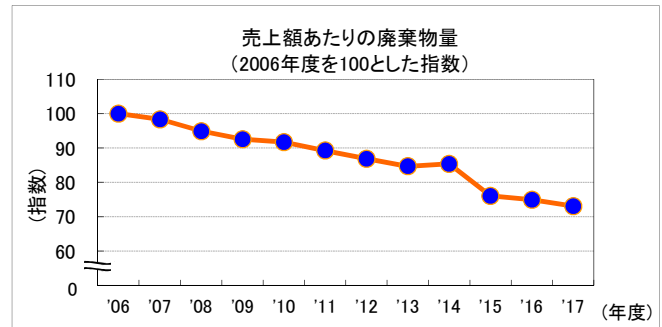
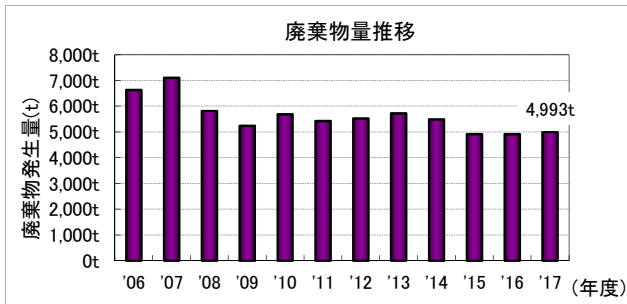


# 廃棄物に関する取組み

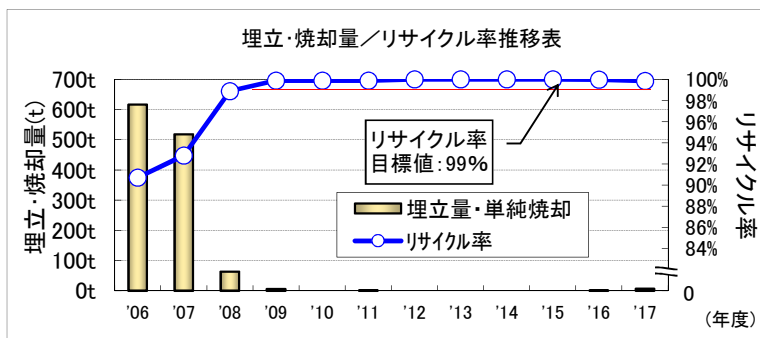
## ● 廃棄物量の削減(西川ゴム単体)

2017年度の廃棄物量もほぼ前年並みの実績となりましたが、売上額あたりの廃棄物量(原単位-指数)は、前年度比約2ポイントの減少となりました。

当社では引き続き、歩留の向上、不良率の低減等、廃棄物発生抑制に継続的に取り組んでいます。



## ● リサイクル率の向上(西川ゴム単体)



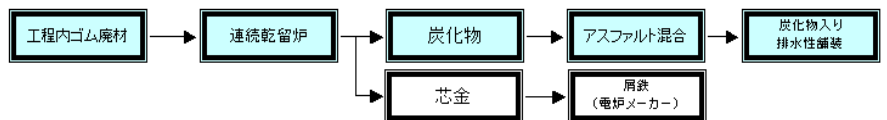
2009年度に、目標としてきたリサイクル率99%を達成し、2009年度以降目標値クリアを継続しています。

\*1)埋立量:直接埋立される廃棄物量  
\*2)リサイクル率:埋立, 単純焼却以外の廃棄物量/廃棄物の総量

## ● 廃棄物の有効利用(西川ゴム単体)



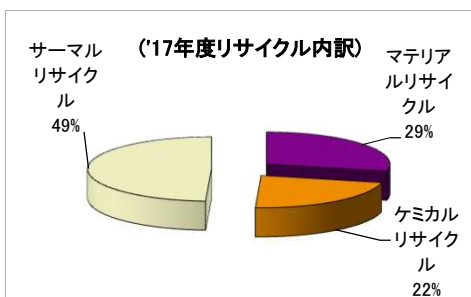
工程内ゴム廃材を炭化させたものとアスファルトを組み合わせることにより、丈夫で安価な排水性アスファルト混合物を作っています。



※ 乾留技術の詳細については、  
[http://www.nishikawa-rbr.co.jp/technology\\_recycle.php](http://www.nishikawa-rbr.co.jp/technology_recycle.php)  
※ 炭化物をアスファルトへ添加する技術の詳細については、  
[http://www.nishikawa-rbr.co.jp/technology\\_asphalt.php](http://www.nishikawa-rbr.co.jp/technology_asphalt.php)  
をご参照ください。

## ● リサイクルの内容について(西川ゴム単体)

当社のリサイクルの内訳は、29%がマテリアルリサイクル、22%がケミカルリサイクル、そして残りの49%がサーマルリサイクルです。



### 【マテリアルリサイクル】

ゴムの廃材を利用したゴム板を作成し、一部の自動車のガソリンタンク緩衝材や住宅の防音床や、人工芝用資材として、又 ポリエチレンシート of 端材をエアコンのドレンホースの材料として再生されています。



### 【ケミカルリサイクル】

ゴム廃材を連続乾留し、生成された芯金と炭化物をそれぞれ売却しています。

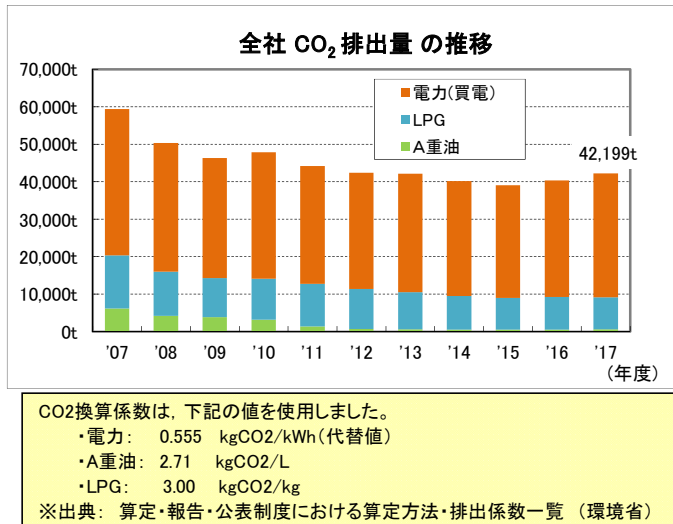
### 【サーマルリサイクル】

セメント会社の原燃料として利用されています。また、RPF (Refuse Paper & Plastic Fuel の略称で固形燃料) の原料の一部となり、多くは製紙会社の燃料として利用されています。



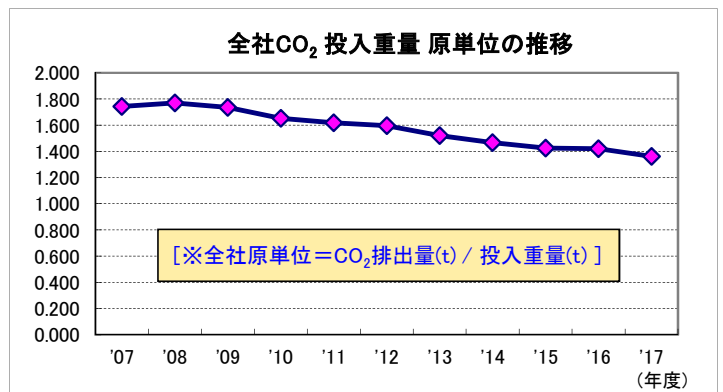
# CO<sub>2</sub>排出量削減の取組み

## ● CO<sub>2</sub>排出量の推移（西川ゴム単体）



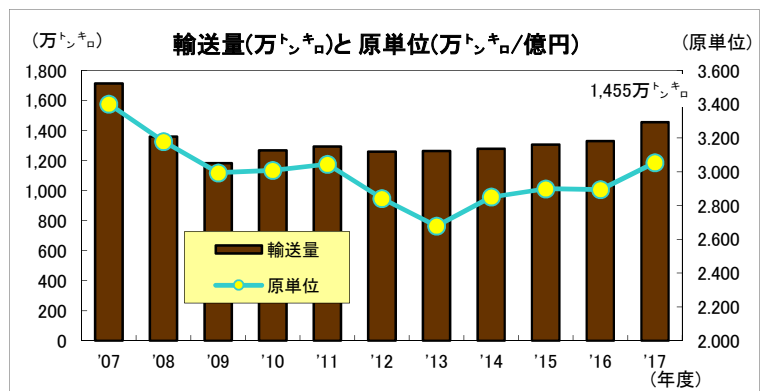
## ● CO<sub>2</sub>原単位の推移（西川ゴム単体）

CO<sub>2</sub>排出量削減, 原単位改善に向けて, 生産拠点及び本社等の非生産拠点それぞれに, 原単位目標を設定し低減に取り組んでいます。

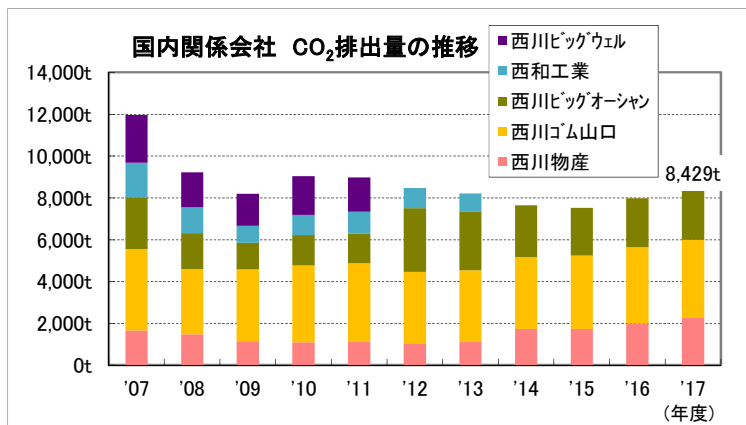


## ● 物流改善（西川ゴム単体）

当社の2017年度の輸送量は, 2016年度に比べ, 仕事量の増加に伴い109%増の1,455万トンキロとなりました。今後も荷姿の改善による積載効率の向上, 直行化直帰化によるデポ・工場間輸送の削減を継続的に行い, 原単位削減を推進してまいります。



## ● 国内グループ会社のCO<sub>2</sub>排出量推移



グループ各社も, 2008年度より当社と歩調を合わせた省エネ活動を実施しています。しかしながら, 2017年度のCO<sub>2</sub>排出量は, 仕事量のUPにともない若干の増加となりました。

(注1) 2012年～西川ビッグオーシャンが西川ビッグウェルを吸収合併  
(注2) 2014年～西川物産が西和工業を吸収合併

CO<sub>2</sub>換算係数は、下記の値を使用しました。

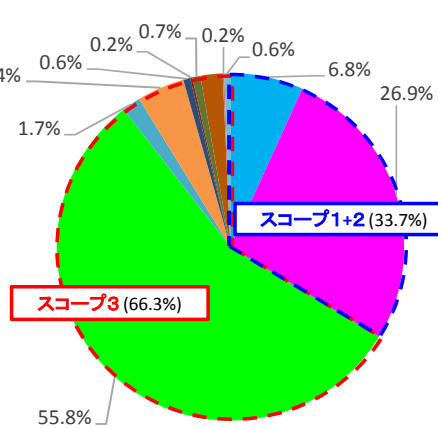
- 電力: 0.555 kgCO<sub>2</sub>/kWh(代替値)
- A重油: 2.71 kgCO<sub>2</sub>/L
- LPG: 3.00 kgCO<sub>2</sub>/kg

出典: 算定・報告・公表制度における算定方法・排出係数一覧(環境省)

## ● 国内 NRC Gr全体 ライフサイクル管理の推進（スコープ1～3 実績把握）

2017年度 スコープ1～3 実績

項目	CO2(ton)	割合
スコープ1 事業者自らの直接排出～国内Gr全体	9,808 t	6.8%
スコープ2 他社からの供給分(間接排出)～同上	38,831 t	26.9%
スコープ3 購入した製品(原材料・副資材・他)	80,650 t	55.8%
カテゴリ1 資本財(自社資本財の建設・製造)	0 t	0.0%
カテゴリ2 エネルギー関連活動(S1・2非含分)	2,475 t	1.7%
カテゴリ3 輸送、配送(自社費用負担分)	6,411 t	4.4%
カテゴリ4 事業から出る廃棄物(自社分)	907 t	0.6%
カテゴリ5 出張(従業員の出張に伴う)	331 t	0.2%
カテゴリ6 雇用者の通勤	1,067 t	0.7%
カテゴリ7 リース資産(上流)	0 t	0.0%
カテゴリ8 輸送、配送(ユーザー負担分)	0 t	0.0%
カテゴリ9 販売した製品の加工(協力企業排出量)	2,973 t	2.1%
カテゴリ10 販売した製品の使用	0 t	0.0%
カテゴリ11 販売した製品の廃棄(加工委託分)	223 t	0.2%
カテゴリ12 リース(下流)	0 t	0.0%
カテゴリ13 フランチャイズ	0 t	0.0%
カテゴリ14 投資	799 t	0.6%
スコープ1+2+3 総計	144,476 t	100%



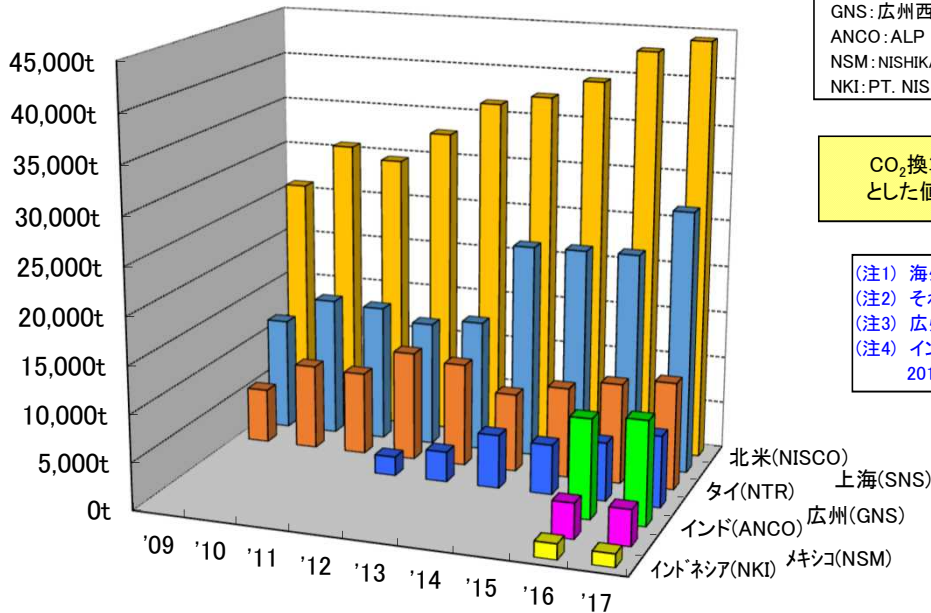
当社は, サプライチェーンを通じた排出量全体像を把握することで, 実質的な削減対策の策定につなげることを狙いとして, 自社の排出量管理にとどまらず, 経産省/環境省のガイドラインに基づいた「スコープ3」の算定を2017年度より実施しています。

今後, 徐々にサプライチェーンでのCO<sub>2</sub>排出量の削減活動を推進していきたいと考えております。

# 主要海外グループ会社 環境実績

## ● 主要海外グループ会社のCO<sub>2</sub>排出量と原単位の推移

主要海外グループ会社 CO<sub>2</sub> 排出量推移



＜主要 海外グループ会社の名称＞  
 NISCO: NISHIKAWA COOPER LLC(アメリカ)  
 NTR: Nishikawa Tachaplalert Cooper Ltd.(タイ)  
 SNS: 上海西川密封件有限公司(中国-上海)  
 GNS: 広州西川密封件有限公司(中国-広州)  
 ANCO: ALP NISHIKAWA CO., PVT. LTD.(インド)  
 NSM: NISHIKAWA SEALING SYSTEMS MEXICO S.A. de C.V.(メキシコ)  
 NKI: PT. NISHIKAWA KARYA INDONESIA(インドネシア)

CO<sub>2</sub>換算係数は、各国の設定係数をベースとした値によるもので算出されています。

(注1) 海外関係会社の中の生産拠点(7拠点)  
 (注2) それぞれの会社の決算月による年間データ  
 (注3) 広州(GNS)は、2012年～生産対応を開始  
 (注4) インド(ANCO),メキシコ(NSM),インドネシア(NKI)は、2016年～データ収集を開始

海外のグループ会社におけるCO<sub>2</sub>排出量推移は、生産量の拡大により現時点では増加傾向にあります。

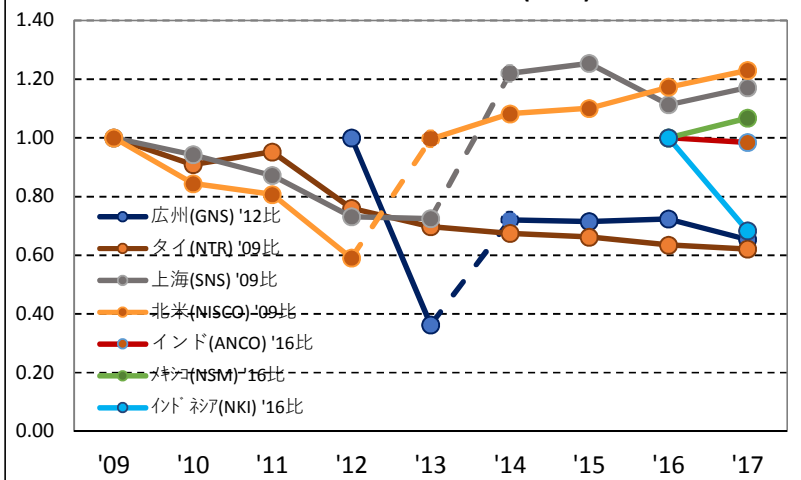
原単位としては、北米で'13年に生産に関わる量の見直しを行ったことで増加。上海/広州では、'14年にCO<sub>2</sub>排出係数の見直しを行い、排出量及び原単位が増加となっています。

今後とも、生産性の改善をすすめ原単位改善を推進していきます。

＜各拠点原単位算出ベース＞

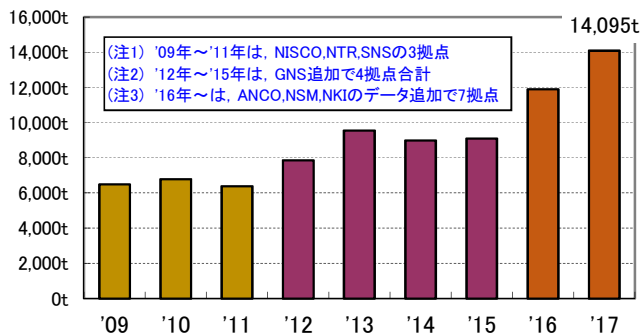
広州(GNS)	(CO <sub>2</sub> t/万元)
タイ(NTR)	(CO <sub>2</sub> t/M baht)
上海(SNS)	(CO <sub>2</sub> t/万元)
北米(NISCO)	(CO <sub>2</sub> t/生産千t)
インド(ANCO)	(CO <sub>2</sub> t/百万Rs)
メキシコ(NSM)	(CO <sub>2</sub> t/生産千t)
インドネシア(NKI)	(CO <sub>2</sub> t/億IDR)

主要海外グループ会社 原単位(指数)推移



## ● 主要 海外グループ会社の総廃棄物量とリサイクル率

主要海外グループ会社 総廃棄物量の推移

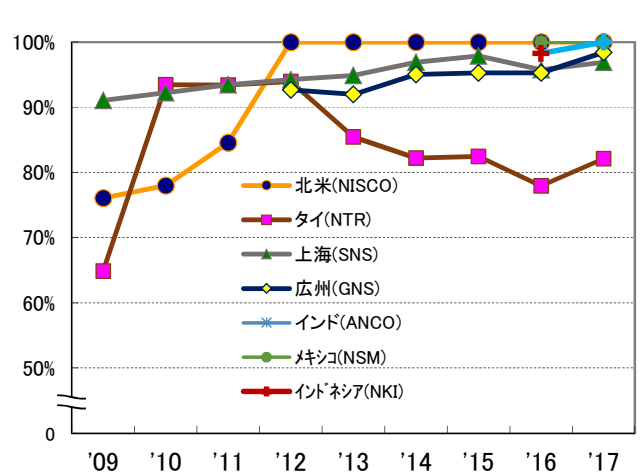


(注1) '09年～'11年は、NISCO,NTR,SNSの3拠点  
 (注2) '12年～'15年は、GNS追加で4拠点合計  
 (注3) '16年～は、ANCO,NSM,NKIのデータ追加で7拠点

海外グループ会社でも、廃棄物のリサイクル率の向上を目標として取り組んでいます。

100%リサイクルを達成した会社も出てきています。

主要海外グループ会社 廃棄物リサイクル率の推移



# 環境負荷物質の排出状況と水使用量

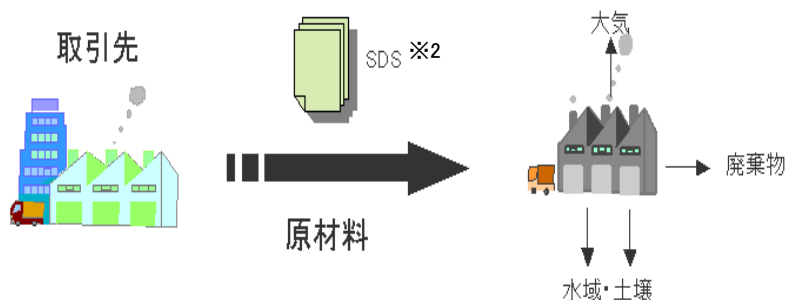
## ● PRTR物質の削減

1999年に制定されたPRTR※1法(特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の改善の促進に関する法律)に指定された特定化学物質については、排出量を算出しております。

これら化学物質の使用量の削減対策は、製品設計の見直し、改善により取り組んでいます。

※1 PRTR : Pollutant Release and Transfer Registerの略  
環境汚染物質排出・移動登録制度

※2 SDS : Safety Data Sheetの略  
化学物質の性状及び取り扱いに関する情報を記載した化学物質安全性データシート



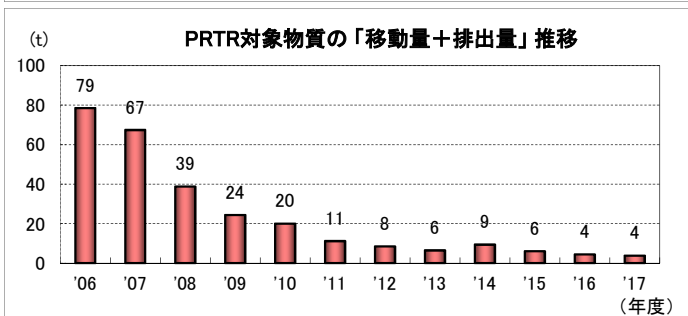
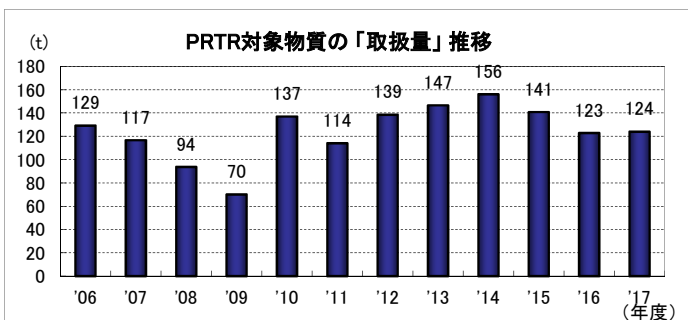
## ● 2017年度環境負荷物質の移動量・排出量の状況

〈年間取扱量が1t以上のPRTR法該当化学物質で集計〉 〈単位:t/年〉

政令番号	CAS No	指定化学物質	移動量 廃棄物	排出量		
				大気	水質	土壌
42	96-45-7	2-イミダゾリジンチオン	1.42	0.00	0.00	0.00
268	137-26-8	テトラメチルチウムジスルフィド	0.54	0.00	0.00	0.00
372	95-31-8	ビス(水素化牛脂)ジメチルアンモニウムクロリドN-(tert-ブチル)-2-ベンゾチアゾールスルフェアミン	0.06	0.00	0.00	0.00
452	149-30-4	2-メルカプトベンゾチアゾール	1.71	0.00	0.00	0.00
438	1321-94-4	メチルナフタレン	0.00	0.01	0.00	0.00
合計			3.73	0.01	0.00	0.00

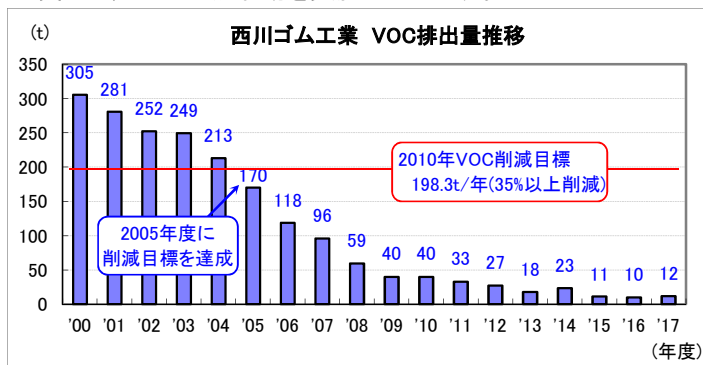
継続的な削減活動を進めた結果、ここ数年 移動量としての多少の増減はみられるものの、ほぼ現状維持の状態です。

今後も異常値の発生のないよう日常の監視体制の維持を図ります。



## ● 揮発性有機化合物(VOC\*)の排出量削減

当社は、日本ゴム工業会のVOC排出量の削減自主規制計画に賛同し、VOC削減活動を実施しています。



※ VOC: Volatile Organic Compounds (揮発性有機化合物)

VOC 17物質  
アセトン、イソプロピルアルコール、キシレン、酢酸ブチル、酢酸エチル、シクロヘキサン、ジクロロメタン、テトラクロロエチレン、トリクロロエチレン、トリクロロエタン、トルエン、n-ヘキサン、メチルアルコール、メチルイソブチルケトン、メチルエチルケトン、ゴム揮発油、その他の炭化水素(炭素、水素のみで構成されるもの)

◎ 日本ゴム工業会のVOC排出削減に関する自主行動計画における削減目標

- ・2008年までに25%以上削減(2000年度ベース)
- ・2010年までに35%以上削減(2000年度ベース)
- ・2011年以降も当面の目標は35%以上削減(2000年度ベース)を継続する

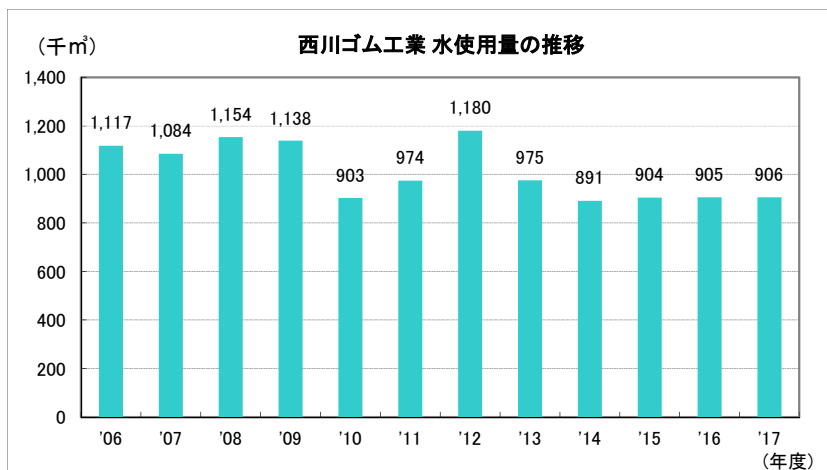
〈年間1t以上の日本ゴム工業会が定めた代表VOC17物質で集計〉

VOC排出量については、早い時期から有機溶剤塗料の水性塗料への切替えを行ってきた結果、日本ゴム工業会の自主目標(2000年度比35%削減)を2005年度には前倒しで達成しました。また、自動車工業会の進める車室内VOC低減活動のために、VOC含有素材使用制限活動を展開しています。

## ● 当社の水使用実績の推移

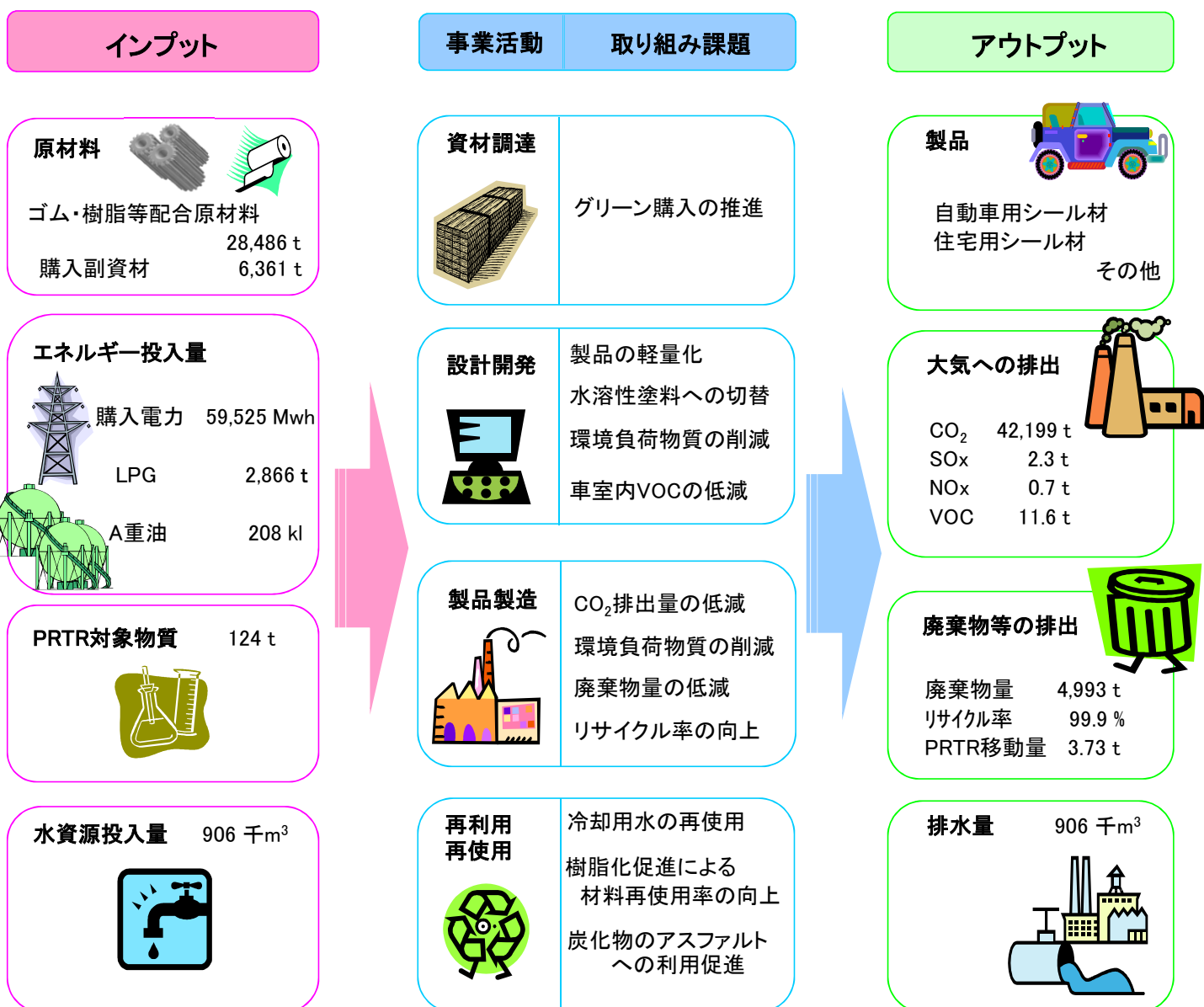
当社の生産活動における水使用の主目的は、設備や製品関係の冷却です。

排水の水質チェックとともに、使用量の異常の発生を監視しています。





# 2017年度の環境パフォーマンスまとめ (西川ゴム単体)



## 《算出方法等》

インプット	原材料	購入した原材料・配合薬品類の量
	エネルギー投入量	工場・事業所における電力、油、ガスの消費量
	PRTR対象物質	工場・事業所におけるPRTR法の対象とされる化学物質
アウトプット	大気への排出	CO <sub>2</sub> : 工場・事業所におけるエネルギー消費にともなうCO <sub>2</sub> 排出量 (エネルギー消費量 × CO <sub>2</sub> 換算係数) NOx, SOx: 工場・事業所の排気口(ボイラー等)から排出される 排ガス中の物質濃度を測定した結果に基づき算出
	廃棄物の排出	対象の年度に工場・事業所において埋立処分、単純焼却、リサイクルされた量
	排水量	水資源投入量と同じ値(蒸発量は測定できないため、無視しています)

# 環境コンプライアンス

## ● 緊急事態対応訓練

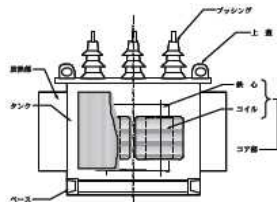
当社では、緊急事態を想定した訓練を実施しています。右の写真は、安佐工場での重油が漏洩した場合を想定した訓練の一例です。



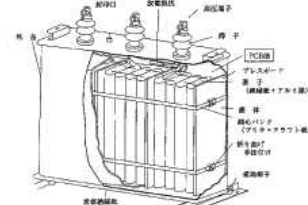
## ● (特別管理産業廃棄物) ポリ塩化ビフェニル(PCB)含有機器の管理



高圧トランスの例



高圧コンデンサの例



コンデンサを内蔵する安定器の例

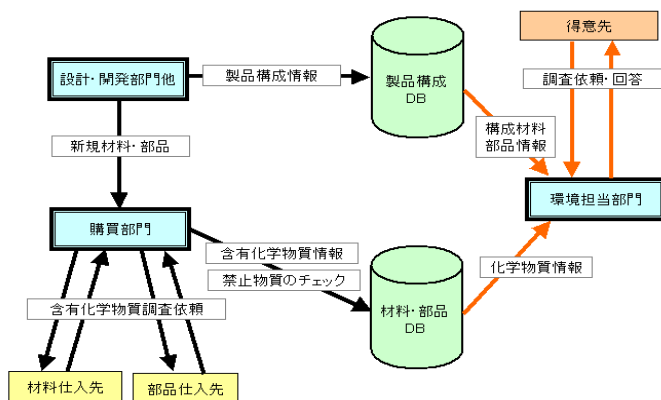


昨年(2017)度、当社の処分対象機器(トランス13台)の法律にもとづいた処置(搬出～処分)を実施しました。



今後、使用中の機器(低濃度)を中心に、計画的な入替え対応を行い、法定期限内に順次適正処分を実施していく予定です。

## ● 環境関連法規制に基づく環境負荷物質(SOC※3)管理システムの構築



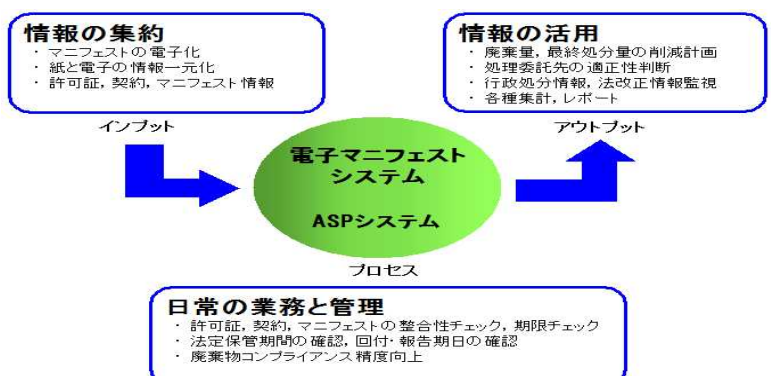
[西川ゴム工業の製品含有化学物質管理のフロー]

欧州のELV指令※4, RoHS指令※5, REACH規則※6, 法規制やお客様からの要求をふまえ、弊社では使用を規制する環境負荷物質(SOC※3)リスト[NSE0001;環境負荷物質の管理規定]を制定し、左記のような体制を構築して、SOCの管理・低減をグローバルで取り組んでいます。

- ※3 : SOC(Substances Of Concern)
- ※4 : ELV(End of Life Vehicles) 指令
- ※5 : RoHS(Restriction of Hazardous Substances) 指令
- ※6 : REACH(Registration, Evaluation, Authorization and Restriction of Chemicals) 規則

## ● 廃棄物管理 電子システムの導入

現在、国内Gr各社へ導入している産業廃棄物処理状況の一元管理を目的とした“電子マニフェスト”システムを活用し、引き続きコンプライアンス違反のリスク低減と、業務コストの改善を継続推進しております。





# 地域貢献活動, 環境保護活動, コミュニケーション

## ● 安佐工場 地域貢献, 環境保護, コミュニケーション

### 《吉山川清掃》

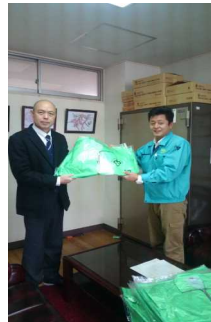
2017/5/28 太田川漁協主催の 教養ゼミ体験授業を安佐工場周辺の吉山川で実施され、バスの駐車場やトイレと飲み物を提供しました。

時間	場所・移動	内容・行程	備考
午前8:15	A棟駐車場・車庫付近	マイクロバス 現地へ出発	時間厳守
午前9:30	西川コム駐車場	現地到着 バス下車 整備等体験準備	朝長監理
午前9:50	吉山川河川堤	組合長あいさつ 体験作業内容・注意事項説明	
午前10:00	吉山川	・河川清掃(約1km)開始 ・兼訪(吉山川にみごとなる橋周辺)	
午前11:30	吉山川	河川観察、アユ放流体験	
午後0:30	吉山川河川堤	アユの塩焼き体験 昼食(各自持参)	朝長片付け
午後1:30	吉山川河川堤	・水辺の教室、投網体験 ・講義 太田川のアユ漁(網漁)の歴史など	
午後3:00	吉山川河川堤	体験終了、片付け	
午後3:20	吉山川コム駐車場	お礼のあいさつ、集合写真撮影	
午後3:30	マイクロバス 大学へ出発		
午後4:00	北倉生産人棟 横	大学着 長靴水洗い 解散	適宜対応



### 《久地小学校へ「見守り隊 ジャンパー」の贈呈》

2018/1/15 久地小学校安全ボランティア(見守り隊)へジャンパー40着を寄贈しました。



## ● 白木工場 地域貢献, 環境保護, コミュニケーション

### 《工場周辺のクリーンウォーク》

2017/4/22 恒例のクリーンウォークを実施しました。



### 《献血への協力》

2017/7/3と, 2018/1/12の2日間 工場内にて献血車による献血を実施しました。



### 《敷地内 堂山“祠”への参道整備》

白木工場敷地内に「堂山」と呼ばれている小高い山があり、頂上に 祠と供養塔が祭られています。

入り口付近の足場が悪く、地域の方々が2~3度/年 お参り、掃除に来られる際ご苦労をされておりました。

入り口に階段を設置し足場の改善と、花壇の整備を行いました。



### 《白木中学校インターンシップ受入れ》

2017/5/9~5/11 (NI仕上裁断工程で実習)この度は、1名でしたがテキパキと作業をこなしておられました。





# 地域貢献活動, 環境保護活動, コミュニケーション

## ● 吉田工場 地域貢献, 環境保護, コミュニケーション

### 《工場周辺清掃》

2017/6/9 工場周辺の一斉清掃を実施しました。

### 《地域でのお祭りへ参加》

2017/7/15 実習生にも協力いただき, 毎年恒例の地元のお祭り”一心祭り”へ参加させていただきました。



### 《吉田小学校 工場見学受入れ》

2017/10/25 当社の生産現場の説明や見学で, 大変興味をもっていただいたようです。



## ● 三原工場 地域貢献, 環境保護, コミュニケーション

### 《工業団地内の清掃活動》

2017/11/15 小原工業団地協議会主催による清掃活動に参加をしました。



### 《『エヒメアヤメ』自生地の下草刈作業参加》

2017/6/20 毎年恒例となっている, 地元保存会・町内会・小中学校・工業団地企業等による, 国の天然記念物「エヒメアヤメ」の保存を目的とした下草刈に参加しました。





# 地域貢献活動, 環境保護活動, コミュニケーション (国内関係会社)

## ● 西川物産 地域貢献, 環境保護, コミュニケーション

### 《会社周辺定期清掃》

西川物産では、毎月 第2月曜日を「周辺清掃の日」として定期的な清掃活動を行っております。



## ● 西川ゴム山口 地域貢献, 環境保護, コミュニケーション

### 《工業団地の清掃活動》

2017/6/15 実習生も参加し、工場周辺の道路や側溝の清掃を行いました。



### 《やまぐち移植医療推進財団運営支援型自動販売機の設置》

自販機の売上金の一部が「やまぐち移植医療推進財団」の活動資金として活かされています。



## ● 西川ビッグオーシャン 地域貢献, 環境保護, コミュニケーション

### 《地域貢献 (井原事業所)》

NBO井原事業所では、小学校が近いということで“こども安全110番の家”の取組へ賛同しています。

また、AEDを設置～訓練を行い、社内外の緊急時に対応できるようにしています。



### 《近隣清掃活動 (NBO本社・安佐事業所)》

2018/3/23 NBO本社と安佐事業所員で、安佐工場の周辺(吉山川橋, コンビニ横の畦・畑)を清掃しました。





# 地域貢献活動, 環境保護活動, コミュニケーション (海外関係会社)

## ● NISCO 地域貢献, 環境保護, コミュニケーション

〈海外グループ会社の名称〉  
 NISCO: NISHIKAWA COOPER LLC(アメリカ)  
 NTR: Nishikawa Tachapalart Cooper Ltd.(タイ)

《“Indiana Environmental Stewardship Program”への登録》

NISCOでは, “Indiana Environmental Stewardship Program”へ参画(参加企業として登録)し, 汚染防止や廃棄物削減の活動を進めています。



《“United Way”に参加》

“United Way”は, 地域の団体と一緒にになって地域問題を解決するために資金や人材を活用します。



《保存食の地域への寄付》

“Hunger in America”  
 保存食を集め地域の食料庫へ寄付しています。



《“Junior Achievement”》

ニスコ社員が社会人の立場から, 他分野にわたる専門知識を地域の高校に出向いて, 授業の一環としてレクチャーしています。



《“Arc Opportunities” アーク・オポチュニティーズ》

NISCO本社が所在するラグランジ郡と隣接するノーブル郡フォートウエイ市の, 知的発達・発育障害を持った方々へのお仕事を提供しています。



## ● NTR 地域貢献, 環境保護, コミュニケーション

《地域貢献活動》 2017/12/28 工場周辺の清掃を行いました。





# 地域貢献活動, 環境保護活動, コミュニケーション (海外関係会社)

## ● ANCO 地域貢献, 環境保護, コミュニケーション

< 海外グループ会社の名称 >

ANCO: ALP NISHIKAWA CO., PVT. LTD. (インド)  
NKI: PT. NISHIKAWA KARYA INDONESIA (インドネシア)

《 地域貢献活動 》

2017/6/6 Chhabeel チャリティ食事提供



2017/7/7 グルガオン本社 地域住民への無償ランチ



## ● NKI 地域貢献, 環境保護, コミュニケーション

《 地域貢献活動 》

2017/8/16 NKI従業員の多くが居住している地域の小学校の清掃を行いました。





# 地域貢献活動, 環境保護活動, コミュニケーション (海外関係会社)

## ● SNS・GNS 地域貢献, 環境保護, コミュニケーション

《クリーンワーク》

(SNS) 工場の周辺の掃除を5月, 10月の2回行っていきます。



(SNS) 7月と12月 松江区永豊街道の消防中隊へ, 敬意を表し慰問を行いました。



＜海外グループ会社の名称＞  
 SNS: 上海西川密封件有限公司 (中国-上海)  
 GNS: 広州西川密封件有限公司 (中国-広州)  
 NSM: NISHIKAWA SEALING SYSTEMS MEXICO S.A. de C.V. (メキシコ)

(GNS) 2017/7/30 工場周辺の掃除を行いました。



(GNS) 2017/7/30 献血活動を行いました。



(GNS) 2017/8/13 日自動車城消防隊を慰問。



## ● NSM 地域貢献, 環境保護, コミュニケーション 《植林活動》 2017年から, シラオ市の学校で植林活動を行っています。

《リサイクルコンテストの開催》

2017/5月～リサイクルコンテストを開催し, 従業員の“環境保護”への意識付けを行っています。





(補足情報) … NSM にて実施された“リサイクルコンテスト” 作品の一部を紹介します

- 2017年に作られたもの:



家具

いす  
靴棚



長もち



電気スタンド



机



写真立て  
テーブル  
ペン立て  
ごみ箱



電気スタンド

使用された廃棄物は:



金属

スクラップ

木材

プラスチック



古紙



トケイソウ（時計草、パッションフラワー、Passion flower）はトケイソウ科・トケイソウ属（*Passiflora*）に分類される植物の総称であり、狭義には *Passiflora caerulea* という種の和名

作成日 : 2018年 7月 31日

発行元 : 西川ゴム工業 株式会社  
品質保証本部 環境安全部

連絡先 : TEL 082-237-9375(直通)  
FAX 082-238-3983(同上)